

2022年度第1回放送番組審議会 議事録

- 開催日時 2022年10月20日(木) 15時から16時10分
- 開催場所 三次市生涯学習センター 3階ホール
- 出席者委員 植田千佳穂・石田睦子・添田龍彦・前田茂・中宗久之・中菊圭子
竹本勇夫・内藤隆弘・上谷一巳・垣添博子(敬称略)
- 欠席者委員 小木戸康志・有田雅俊(敬称略)
- 説明員 株式会社三次ケーブルビジョン
林代表取締役社長・日野常務取締役・猶崎制作グループリーダー
田丸企画制作グループリーダー・日野制作グループ員
伊達制作グループ員
- 1 開 会 出席者が揃ったため、定刻より2分早く事務局が開会宣言。
事務局 今年度任期満了に伴い、全員に委嘱状を交付。任期は本年の9月1日から2024年8月31日までとする旨を伝える。
- 2 社長挨拶 代表取締役社長が開会にあたっての挨拶。
審議して頂く「ふるさとの自然」は三次弁と独特の語り口調で菅さんの温かさや人柄を通じて、親しまれているのが、この番組の良さであり、私たちが故郷三次に住んでいて、日々の暮らしの中で、見過ごし、気付かない自然や動・植物の生態、それに自然の営みがあることに気づかせていただいている貴重なコーナーではないかと思っている。
みなさんの貴重なご意見で、この番組がますます魅力あるものにしていきたいと述べた。
- 3 会長・副会長の選出 委員から事務局一任の声で、植田会長と石田会長を選出する。
- 4 会長挨拶 植田会長が挨拶。会がスムーズに進むように努力すると述べた。

- 5 副会長挨拶 続いて石田副会長が挨拶。皆さんの意見をしっかり伺って会を進めていきたいと述べた。
- 6 新委員紹介 今年度新たに委員となった小木戸委員、竹本委員、垣添委員を紹介。会に出席した竹本委員と垣添委員が自己紹介を行った。
- 7 社側自己紹介 役員・社員が自己紹介を行った。
- 8 事務局 本日の出席状況について報告。本日は小木戸委員・有田委員2名が所用のため欠席。放送番組審議会委員12名中10名の出席を頂いており、放送番組審議会規則第6条2項により有効に成立していることを報告する。
- 9 審 議 審議に入る。皆様のご協力を頂きながら円滑な進行に努めてまいりたいと述べ、審議内容となる「映像歳時記ふるさとの自然」について事務局からの説明を求める。
- 会長（司会）
- 番組担当者 制作グループ員の番組ディレクターが9月5日に放送した「映像歳時記ふるさとの自然」について、配布資料に基づき企画意図や番組概要、演出などの説明を行う（事前に委員へDVDを送付）
- 会長（司会） 視聴いただいた番組の内容について、忌憚のない意見をお願いします。
- 委 員 素晴らしい内容で感動した。ただ、出演者は「ホタルの乱舞」とコメントしていたが、実際の映像を見ると、「乱舞」と表現するには数が少ないのではと感じた。ホタルの生態サークルを紹介するテロップがあったが、どの辺りを説明しているのか分かりにくかった。全体的には興味深く、勉強になる内容だった。
- 社 側 指摘の2点は確かに気になる点であったと思う。「乱舞」はちょっと大きさに表現してしまい、今後、現実にあった表現を心がける。
- 委 員 ホタルの生態は日頃見ることが出来ないのも、興味が沸く内容だった。貴重な映像なので、学校や図書館などで活用できればいいと思う。放送後の活用方法を考えてもらいたい。菅さんの人柄は伝わるが、若い人から見ると、方言が分かりにくい部分もあると思う。

社 側 菅さんの三次弁はなくてはならないものだと考えるが、聞き手の竹岡キャスターが三次弁を分かりやすく解説するなどの方法をとる。

委 員 普段からよく見る番組。難しい方言はなんらかの工夫がいると思う。菅さんの苦労話もあり、興味深かった。

委 員 ホタルの産卵の様子や生態のサイクルが分かりやすく表現できていた。17分の中で「ホタル」と「オオマツヨイグサ」の2つの題材が取り上げられ、2つともしっかり理解することが出来た。1円玉で大きさを比較しているのも分かり、三次弁も親しみがもてた。

社 側 菅さんの人柄を出せば出すほど皆さんに楽しんで見ていただいているのだと感じた。

委 員 菅さんの三次弁はふるさと意識が感じられ、ホタルの生態に感動した。写真を色鮮やかに出せたら良かった。ふるさとを再発見でき、勉強になるのでこれからも続けてもらいたい。

委 員 動物と植物の2つを扱ってもらいうれしい。番組用のテロップを何らかの形で活用・展示するなど使ってもらいたい。気になったのは、おしべとめしべが逆に紹介されていた。編集やフォローはどうするのか気になった。その辺りの確認はどうするのか、そうでないと間違った情報が放送されてしまう。

社 側 編集時に間違っていないかなど調べるが、今後は小さいことも確認しながら番組作りを行っていく。

委 員 夜から朝までの撮影の苦労さが分かった。ホタルの卵を初めて見せてもらい、オオマツヨイグサという花も知る事が出来、もっと見せてもらいたいと思った。

副 会 長 テロップの出るタイミングが分かりやすく良かった。17分の時間はあっという間で、感動しながら拝見した。菅さんの三次弁は聞き慣れている言葉で、身近に感じる事が出来た。環境を守ることにつながると思うので、全て世代に見てもらえればと思う。

会 長 素晴らしい内容だったが、イラストの解説については、菅さんがイラストを見ながら説明する方が、より分かりやすくなるのではと思った。ホタルの生態など詳しくないので、今回の映像があれば、色々な世代に知ってもらえると思う。絶滅危惧種などの植物を撮影することは非常に大事なことであり、それを丹念に撮影して番組として残していくことは非常に価値が高いことだと思う。

委 員 この番組を作るのに一番苦労したことを教えてほしい。

社 側 菅さんが難しいことを話すので、それが正しいのか正しくないのかをしっかりと調べないと間違いを放送することになるため、その点が一番苦労していることだと思う。今回の番組でいうと、ホタルの生態のテロップを分かりやすく作ったこと。

社 側 植物の名前の由来などは色々な説があって、どれが正しいのか分からない時などは、色々調べて、「諸悦あり」と添えて、菅さんの見解として放送しているが、見解と事実を誤ってしまうといけないので、その辺りに気を付けていきたい。番組づくりの苦労について、菅さんが一番苦労していると思う。カメラを何台も使って撮影している点などが挙げられる。

社 長 地元には素晴らしい研究者がいるので、その人たちが記録されているものを視聴者に分かりやすく伝えることをしながら、記録に残していく役割を課せられているのではと思う。
また、正しい情報を伝えることについて、研究者に任せるだけではなく、スタッフも勉強していく姿勢が必要だと感じている。

副 会 長 植物を守ることは三次の観光にもつながるので感じた。

委 員 身近にあっても知らないことは多いと思うので、そのような題材を取り上げてもらいたい。また、知っていることでも、より深く掘り下げた内容の番組を作ってもらいたい。

委 員 映像を通して自然環境について考えるような番組づくりをして欲しい。

- 社 側 問題意識を持った番組づくりにおいて、菅さん任せにせず、ピオネット主導で企画をしていきたい。
- 委 員 番組が出来るまでの流れは？
- 社 側 台本はなく、番組の構成を打ち合わせして大きなテーマを菅さんに伝え、放送の1ヶ月半ほど前に菅さんが撮影を行う。その映像を編集し、放送の1週間前にスタジオ収録して放送している。
- 会長（司会） 皆様の意見が出揃ったようですので、事務局へお返します。
- 10 閉 会 事務局より審議会の議事録を HP に掲載し、翌日のニュース番組「情報ストリートあっちこっち三次」で放送することを伝え、次回、第2回目の番組審議会は来年2月開催予定の旨を案内し閉会した。

以上